

對釋文中使到庵宣旨庵之後三里有大瀧瀧上大柳樹偃塞亘瀧口觀將宣使至瀧所上柳樹手擎香爐啓白持念于時爐煙聳騰滿山谷黑雲相和甘雨大灑觀及官使霑衣而歸

〔書言字考節用集一乾坤〕布引瀧スノビキノタキ攝州兎原郡

〔兵庫名所記上〕一布引瀧 生田川の水上なり

瀧二段にして流る間二十三丈餘海邊より見るもの布をさらし地にはへたるがごとし○中瀧の麓に瀧昌寺と申寺あり布引山と號す俗にたきの寺と稱す本尊はとう觀音ゑんの行者の作、惡源太よしひらの影像有

〔陸西遊行囊抄三〕布引ノ瀧 長サ三十間ト云々但今ハ十四五間ナリ是ヲ雄瀧ト云雌瀧ハ是ヨリ下ニアリ伊勢物語ニハ高廿丈廣サ五丈許トアリ今ハ幅二間許

〔伊勢物語下〕むかし男つの國むばらの郡あしやの里にゑるよししていきて住けり○中此男このかみもゑふのかみ成けりその家の前の海の邊にあそびありきていざ此山のかみに有といふ布引の瀧見にのぼらんといひてのぼりてみると其瀧物よりことなり長さ廿丈ひろさ五丈ばかり成石のおもてにゑらきぬに岩をつめらんやうになん有けるさる瀧のかみにわらうだの大さしてさし出たる石有その石のうへにはしりかゝる水はせうかうじくりの大きさにてこぼれおつ○下

〔書言字考節用集一乾坤〕養老ヤウラワノタキ濃州多藝郡多度山泉事見續日本紀著聞

〔東遊行囊抄五〕養老ヤウラワノタキ自駒野

此所左ノ山ニ瀧アリ名所也舊記曰元正天皇養老元年九月近江國へ行幸山陰山陽南海道ノ國司參津ニテ歌舞遊興アリ其ヨリ美濃ニ行幸東海道東山道北陸道ノ國司來集テ雜伎ヲ奏ス美濃國當耆郡多度山ニ泉アリ是ニテ手ヲ洗ヒ面ヲ洗人ハ皮膚滑ニナレリ又痛アル所ヲ洗ヘバ